広報**きゃんせ**長浜

平成20年 **1** 月号

Contents

■特集「地域と子ども」 2～5Ｐ
■市議会から(12月議会の主な内容) 6・7Ｐ
■公共施設使用料の見直し 8・9Ｐ
■シリーズ「道州制と１市６町合併」 10～12Ｐ
■景観条例、幼保一元化(パブコメ) 13Ｐ
■ほっとにゅーす 14・15Ｐ
■後期高齢者医療制度、健康長浜21 16・17Ｐ
■特定健康診査 18Ｐ
■職員募集、入札(湖北広域、水道企業団) 19Ｐ
■税 20Ｐ
■しょうがい者・高齢者のお知らせ、年金 21Ｐ
■お元気ですか(インフルエンザ感染予防) 22Ｐ
■人権ってなあに、平和都市宣言、防災 23Ｐ
■ＮＡＡＰ会議 24Ｐ
■イベントなどのお知らせ 25Ｐ
■インフォメーション 26・27Ｐ
■裏表紙 春を呼ぶ梅の香り盆梅展 28Ｐ

今月の表紙

12月12日(水)に、浅井地域子育て支援センター主催のママぴよ広場に参加されていた中嶋美華(みか)さん、生登(いくと)くん(8か月)親子。

ママぴよ広場は、5か月～10か月児とそのおかあさんたちを対象に、赤ちゃん体操とおかあさんたちの産後シェイプアップのために開催されていますが、家庭から地域に出て行くきっかけの一つにもなっています。

中嶋さんは、「広場に参加することで、子どもには刺激になるし、自分自身もリフレッシュができるので、すごく楽しいです。」とおっしゃっていました。

子どもを育てるためには、こういった機会をもっと地域でつくり出すこと、そしてそれに参加することが、きっと大切なのでしょうね。

特集 地域と子ども

～みんなが輝く地域をつくっていくために～

一昔前までは、公園や神社などで子どもたちが遊んでいる光景をよく見かけました。最近では、そんな姿はほとんど見られなくなり、街角から子どもたちが消えてしまったという声を聞くようになりました。子どもたちの声が聞こえないのはさみしいものです。子どもたちが地域で輝き、地域が今以上に元気になっていくために、自分にできることや地域でできることを始めていきましょう。

子どもの数は減っている

国では平成6年の「エンゼルプラン」に続き、平成11年には「新エンゼルプラン」を作成し、少子化に取り組んできましたが、依然として少子化に歯止めがかかっていません。

平成18年の出生数は109万人、合計特殊出生数は1.32とその前年に比べると少し増えましたが、長期的に見ると減少の一途をたどっています。長浜市でも、平成18年の出生数（届出件数）は908人とその前年の約87%にとどまっており、年によって増減はあるものの、やや低下傾向にあります。

↑12月12日に、浅井子どもの館で開催されたママぴよ広場で、親子で体操をしている親子。

→12月13日に、びわ地域子育て支援センターで行われたのびのびクリスマス会に参加した親子。

子育ての風が地域へ

国は、少子化の流れを変えるために従来の取り組みに加え、さらなる対策を推進するため、「次世代育成支援に関する当面の取組方針」をとりまとめ、その中で、家庭や地域社会における子育て機能の再生を実現していくこととしました。

また、市でも、長浜市次世代育成支援対策行動計画を策定し、社会全体で子育てを支援するとともに、若い世代が子育てに伴う喜びを実感できる環境を整備していくため、7つの基本的な考え方の中に地域との関わりをしっかりと位置づけています。

また、計画には、「家庭」「地域」「子ども」の視点から、市民、事業者、地域、行政が行う取り組みをまとめています。

地域で子どもを育てることは、子どもたちだけでなく、その地域の環境を整備し、人を育てることにもつながっていきます。

7つの考え方

①社会全体の課題として取り組む
②子育ての素晴らしさを伝える
③地域で子どもの育ちを支える
④子どものための子育て支援を推進する
⑤すべての子どもと家庭を支援する
⑥民間活力の導入と行政の役割を検討する
⑦地域福祉活動を推進する

地 域

○地域ぐるみの子育て支援（地域における子育て支援サービスの充実や仲間づくりへの支援）
○子どもにやさしいまちづくりの推進（子どもの人権尊重や安全確保、バリアフリー化の推進）
○子どもの育ちを支える地域環境の整備（地域活動の促進や地域活動を支える人材の育成）

家 庭

次世代を担う親の育成、家庭の子育てパワーアップ、子育て家庭への支援サービスの充実

子ども

子どもの健全育成、子どもがのびのびと学び・育つ環境の整備、子どもが健やかに生まれ育つ環境の整備